

【研究ノート】

コロナ禍における保育への影響

金谷京子

目的

2019年に始まった新型コロナウイルス感染症への警戒は3年経った現在でも続いている。本感染症は多くの人々に何らかの影響を与えてきた。日本の教育界・保育界への影響もしかりである（柏女 2020、苫野 2020）。様々な制限が加えられ、子どもたちや教育者・保育者への負の影響が大きいと見られる。しかし、ウィズコロナが続く中では、活動をやめるわけにはいかない。何らかの工夫が必要になってくる。

本研究では、コロナ禍は幼稚園や保育所（以下、保育園と称す）の子どもたちにどのような影響を及ぼしたか、保育をする上で保育者はどのようなことに困り、またどのような工夫をしたかを明らかにするために質問紙調査を行った。本調査結果を参考に今後も継続するであろう感染症を乗り切るための保育を検討したい。

方法

対象：埼玉県内の幼稚園6園（3歳児クラス15箇所、4歳児クラス13箇所、5歳児クラス14箇所）、保育園40園（認定こども園、小規模保育所を含む、0歳児クラス31箇所、1歳児クラス31箇所、2歳児クラス37箇所、3歳児クラス29箇所、4歳児クラス30箇所、5歳児クラス26箇所）のクラス担任に質問紙を配布。

調査時期：2021年7月

調査内容：1. 2020年からのコロナ禍での子どもの変化
2. 新入園児の母子分離の状況

3. 6月時点の排泄自立の状況
4. コロナ禍で、保育をする上で困ったこと、工夫したこと
5. コロナ禍で、気なる子どもの保育で困ったこと、工夫したこと
6. 保護者の勤務の変化による子どもへの影響
7. コロナ禍における保護者との連携への影響
8. 保育者の不安

倫理的配慮

本調査では、個人を特定する質問および回答を求めないよう配慮した。

結果と考察

質問紙には合計226人のクラス担任から回答を得た。

表1～表6の集計結果は、保育者の回答人数を表記している。

1. 2020年からのコロナ禍での子どもの変化（表1）

回答は自由記述で記してもらった。ここでの回答では、子どもたちが、手洗いやうがいが上手になっていることが最も多く上げられ、3歳以上になると自主的に手洗いをしている子どもが多くいる。また、年長児になると互いに手洗いやマスク着用に関して声を掛け合っている様子が見られる。黙食の指導もされていることから、黙食を意識して食べている子どもの姿も見受けられるが、その姿に対して、保育者は「楽しそうでない」とコメントしている。

子どものマスク着用に関しては、3歳児でもマスクの管理が上手になっていることが上げられている。これは、マスク生活が習慣化したことの表れと言えるであろう。また、0歳児では、保育者がマスクを外したら、見慣れない顔と思ったのか「泣き出す」「驚く」などの反応が見られたと言う。保育者のマスク着用の常態化のデメリットと言えるかもしれない。

また、咳をするときには気を付けてするようになったとの報告もある。

報道でもインフルエンザの発生が減っていると伝えられているが、今回の回答にもインフルエンザ等、新型コロナ感染症以外の感染症や風邪を引く子どもが少なかったとの結果が出た。マスク着用、手洗いやうがい等の感染防止対策

を実施した効果と言えるであろう。

子どもの中には、消毒剤で手荒れが出てしまう子どもがいる。消毒剤使用が絶対と捉えず、流水、石鹸での手洗いを丁寧にすること（全国保育園保健師看護師連絡会 2020）を中心にするなど検討をしてほしい事案である。

消毒が日常化している表れとして、子どもたちがままごとの中で消毒の所作を再現している様子が見られることにも留意したい。

2. 新入園児の母子分離状況について

コロナ禍でステイホームの生活が多いために新入園児の中に母子分離が難しくなっている園児が多いのではないかと仮定して質問したが、保育園の3歳児クラスで2人、4歳児クラスで1人の回答を得たのみで、新入園児での大きな変化は見られなかった。

3. 排泄の自立について

近年は、幼児の排泄の自立が遅くなっている（金谷・白石・榛谷 2013）と言われるが、コロナ禍で、家で過ごす時間が多ければトイレトレーニングのチャンスも多くなるのではないかと考え、質問してみたところ、6月の時点での未自立の子どもが幼稚園、保育園の3歳児で69人、4歳児で20人、5歳児で1人となっていた。なかには1クラスに5人いるクラスもあった。未自立の子どもがいると答えた担任に、例年より多いか問うているが、「多い」と回答した担任は8名のみで、「どちらとも言えない」とした担任の回答が多い結果ではあった。本設問については、直接、排泄の未自立とコロナ禍での生活との関連を問うていないので、コロナ禍の影響か否かは明らかにはならなかった。

それにしても、3歳の入園または進級時点で排泄の自立ができていないと、担任の負担になることは明らかであることに留意したい。

4. コロナ禍で保育をする上で困ったこと、工夫したこと（表2）

本質問への回答で多かったことは、保育者のマスク着用問題であった。保育者がマスクをしていると子どもに表情が伝わりにくく、声も通りにくくて困っている様子がうかがえた。ことに未満児は大人の口元の模倣で言葉を覚えたり、咀嚼の仕方を学習したりする。それが思うようにできないとの現状が示された。

これらに対して、保育者は手振り身振りを使用したり、表情をオーバーにしたりするなどの表現の工夫をしている。また、距離が取れるときには、マスクを外して話したり、咀嚼の方法を見せたいときは、マスクを外して口の動きを見せたりしている保育者もいる。

子どものマスク着用に関しては、熱中症への心配がされていた。

子どものマスク着用の徹底は難しいのが現状と思われるが、なかには保護者の方から着けてほしいとリクエストされているケースもあった。子どものマスク使用に関しては、厚生労働省も2歳未満の子どもには使用を勧めておらず、それ以外の子どもにも「個々の発達の状況や体調等を踏まえる必要があることから、他者との身体的距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めません」としている（厚生労働省 2022）。

距離の取り方についても困っている様子がうかがえる。密を避けるために異年齢交流を控えたり、行事を減らしたり、行事の開催の方法を変えたり、保育室の机の位置を変えたり、絵本の読み聞かせも距離を取ったり、送迎バスの座席位置を固定したり、外遊びを増やしたりと様々な工夫がされている。しかし、それでも子どもたちの密を避けるのは難しいと、未満児の担任からの回答が多い。ことに未満児は友だちと接触したり、保育者と触れ合ったりするなど、触れ合うことで喜びを得て育つ時期であり、言葉で距離を取らなくてはならない理由を理解してもらえない年齢ではない。

密を避けるために、異年齢交流を控えたり、行事を減らしたりしたことでの経験不足を心配する声も出ている。

飛沫を避けるために、歌を歌うことも控えてしまっている園もある。また、マスクを着用しながら歌っている園もあるが、個々の子どもがどの程度歌えているのか確認しにくいと言う。

机上の活用や食事のときにパーティションを使用している園では、子どもの動作や集中度を確認しにくい、身体的介助がしにくいとしている。

物品を通しての感染を防ぐために、共用おもちゃや机などを消毒するようになったが、この作業をクラスの保育者が担当している園では、「時間が取られる」として負担感を表明している。なかには、園児各自が所有している物の使用のみとし、共用のおもちゃの使用を禁止している園もある。

子どもたちに感染防止策を理解してもらうために、紙芝居を作ったり、イラストを作成したりして視覚的にわかりやすい方法で伝えているクラスもある。

5. コロナ禍で、気なる子どもの保育で困ったこと、工夫したこと（表3）

コロナ禍では、気になる子の保育は一層困難があるのではないかと考え、現状を問うてみた。保育上困ったこと、工夫したこと（表3）での回答では、子どものマスクの着用および管理が難しい、保育者がマスク着用で表情や言葉が伝えにくいことが上がっている。子どものマスク着用や管理については多くの保育者が記しており、4歳児や5歳児でも難しいケースがあり、困難さを表している。保育者のマスク着用時の工夫については、伝えるときに表現を大きくしてジェスチャーも使用して伝えたり、イラストや絵を使ったりして伝えている。

保育者はそれなりに伝える努力をしていると見えるが、気になる子どもは「感染対策の意味を理解できない」と答える保育者が複数いる。低年齢児の場合もそうであるが、感染対策の意味が理解できない場合は、大人が注意して距離が取れるように工夫する、触るものの消毒をこまめにするなど配慮をしていくことが求められると考える。それでも接触や、咳や大声による飛沫など防ぎきれないものがある。

気になる子どもの保育では、保育者は保護者との連携を大事にしている。しかしながら、保護者と対面で話し合える機会、また、直接保育を見てもらえる機会が感染症の影響で減ってしまい、保護者に状況を伝えにくくなっていることに保育者は頭を痛めている。これは後述するが、気になる子どもの保育に限ったことではないことが明らかになっている。

6. 保護者の勤務の変化による子どもへの影響（表4）

コロナ禍で保護者の勤務形態が在宅勤務に変わるなど、変化した家庭も多い。そこで、保護者の勤務形態の変化が子どもに影響したことはないか問うた。

影響が「ない」と回答した保育者は107人（47.3%）、「ある」は89人（39.4%）であった。回答内容では、ことに保育園で欠席や早迎え、遅い登園などが増えたことが上げられている。父親のお迎えが増えた、父親についての話題が増えた、家での保護者との触れ合いが増えたケースや、早いお迎えで子どもが喜んでいるケースとポジティブなケースが多く見られる。その反面、保護者が家にいるのに、自分だけなぜ園に行かなくてはならないのか理解できず、登園渋

りを起こす子どもがどの年齢段階でも見られた。大人の都合で生活時間帯が変わったことで、生活リズムが乱れ、子どもが不安定になったことが、ことに低年齢児のクラスの回答に見られる。

7. コロナ禍における保護者との連携への影響（表5）

本質問の回答で多かったのは、懇談会や保育参観、行事を取りやめたり、減らしたりしたことで、保護者と話す機会や見てもらう機会が減り、情報共有がしにくくなったことである。百聞は一見にしかずの考えから、保護者に保育を直接見てもらい、子どもの園での集団生活の様子を知ってもらうことを、今回調査対象にした園では、どの園でも大事にしている。そのため、見てもらったり、話し合ったりの機会が減ったことは、保育者には痛手となっているようである。直接見てもらえない分、動画や写真、電話で様子を伝える努力をしている園もある（表2参照）。

保護者が在宅勤務の日があるために子どもを欠席させる、早く迎えに行くなどの協力をした家庭としなかった家庭と両者あったようである。園側からしてみると、欠席に協力してもらうとクラス内の人数が減り、密になりにくいとの理由から協力を望んでいるようであるが、保護者側からしてみれば、オンラインワークの環境が整っていて、保護者が仕事に集中できる環境がある家庭は、子どもを欠席させて家で過ごさせることも可能であろうが、そうでない家庭は厳しいと思われる。ネットワーク環境の格差の是正のために保護者にも支援があるとよいと思われた。

保護者の在宅勤務との関係で園が困ったことの一つに、保護者の勤務時間中の所在の問題である。保育園では、保育中に子どもが発病した等の時のために保護者の勤務先の連絡先を把握しているが、勤務先に電話してみたら在宅勤務で出勤しておらず、すぐに連絡が取れなかった例が散見されている。

新型コロナウイルス感染症が蔓延するようになって、園ではどこも子どもの体調の変化に敏感になっている。ことにマスクができない低年齢児がいて、長時間保育になる保育園では、神経質になる。保護者の中には、多少の体調不良でも登園させてしまっている保護者も見られ、感染のリスクを持ち込んでしまっており、園では困る事態になっている。

今回対象とした保育園のほとんどが、朝の登園時に保護者が保育室に入って持ち物を点検することをやめ、園の玄関で担当の保育者が荷物の受け渡しをす

ることとなっている。そのため、人手が取られること、また、着替え等の点検が不徹底で不足するなどの事態が起きた。

保護者会や行事が中止または減少で、保護者同士の交流の機会が減ってしまったと心配する園もある。新入園児の保護者に至ってはお互い素顔を知らないままでいると言う。

8. 保育者の不安（表6）

保育者の不安で最も多かった回答は、保育者自身の感染への不安である。子どもとの接触が避けられないリスクの高い職場で、このような不安を抱くのは当然のことと思われる。うつされる心配だけでなく、保育者が子どもにうつしてしまう心配もしている。

こうした心配があるなか、早くワクチンを打ちたいと訴える保育者もいる。また、保育者がマスクをしていることで子どもたちに悪影響があるのではないかと心配する保育者もいる。そして、家族が自粛していても自分は休みが取れない、疲れが蓄積していると現状を語る保育者もいる。

まとめと今後の課題

1. 子どもたちを守る

子どもたちは素直に感染対策指導に従っている。マスク着用もけなげに身につけている様子がうかがえる。楽しい会話をしながら食したり、遊んだりするのが子どもたちの本来の姿であろうが、それが抑制され、我慢させられることが増えている。感染リスクの少ない外遊びを増やすことも一策ではないかと考える。

感染から子どもたちを守るのは勿論ではあるが、コロナ禍といえども、発達を保障するためにいかに遊びの場と時間を守るのか、保育の場での大きな課題である。

2. 未満児や気になる子どもへの対応の大変さ

発達的に感染症対策の意味が理解できない状態の子どもへの対応は、大人の気配りが求められる。理解が難しい子どもに理解を求め続けるのではなく、周囲への配慮が必要になると考える。そのための保育者の負担は大きいと想像で

きる。

3. 保育者の苦労の再認識

田中（2022）は、コロナ禍にあつて、「園生活の時間短縮は、保護者の心的、物理的負担を大きくする。そのなかで、園児との質を落とさず、さらに保護者の不安にも対峙する職員は、おそらくこれまで以上に精神的重圧を負う」（田中 2022：7）としているが、本調査からも保育者らの苦労の様子的一端が見えてきた。

4. コロナ禍以前からの問題

汐見（2020）、大豆生田（2020）は新型コロナウイルス感染症の保育の現場への影響が出て、保育を見直さなくてはならなくなったことは、コロナ禍以前に無理して行っていた保育の問題が露呈したと言えるとしている。保育人数の問題、保育者不足の問題、見せるための行事、保育者の労働時間の問題など、改善すべき点があることが見えてきた。アフターコロナになった時に元と同じになるのではなく、コロナ禍で体験した保育のポジティブな面を活かした保育へと変革していくことが期待される。

5. 保育現場での感染対策に向けて

コロナ禍での保育の場への支援として伊藤（2021）は、保育園と学童保育所に対して以下の対策を施すべきとしている。

保育所と学童保育については、マスク・消毒液等の確保、人員増員を行なった場合の財政支援、感染拡大を防ぐためにも、原則開園の考えを見直し、地域の状況を踏まえて休園などを行なえるようにする措置、土曜日保育などができなくなった場合も公定価格や補助金を減額しない措置、感染症対策のための職員は配置の増額、基準の引き上げといった支援が必要である。（伊藤 2021：43）

保育園は、園内で感染者が出た場合を除いて多くは休園をすることはなかった。しかし、職員の家族に感染者が出れば、職員は濃厚接触者となり、休まざるを得ない。となれば現場は人手不足になる。その分の増員が必要となり、財

政援助も必要となる。こうした対策は、今後コロナ感染症が収束した後も、これを機に非常時の対応として実行できるようにしておく必要がある。

6. もっと世間的に評価されるべき仕事

コロナ禍にあって学校は学校保健安全法によって一時休校になった。しかし、保育園は、保護者が働いていること、家に一人であることができない年齢の子どもが利用するものである施設であることから原則開所とされた。幼稚園も家に一人であることができない年齢の子どもが利用すること、保護者の就労等により保育の必要な子どもの受け皿になっていることの原因から一斉休業の対象にはならなかった。

まさに現代の保育の仕事は社会的インフラの一部になっているのである。横山（2022）は、現場の保育士へのインタビューから「保育に携わる方々の努力のおかげでコロナの感染がおさえられている面もたくさんあるはずです。保育の仕事はもう少し世間的に評価されてもいいと思います」という言葉を引き出している（横山 2022: 118）。保育の現場で働く保育者は、まさにエッセンシャルワーカーとして評価されてよい存在と言える。

まだ、終息が見えないコロナ禍にあって、大人と同じ感染対策が取れない子どもたちの安全をどのように守ったらよいのか、制限を多くすれば感染は、より防げるかもしれない。

しかし、制限だけでは子どもの発達を保障できない。もし、感染したらといういざという時の対策を立て、保護者とも対策を話し合っ、この際、保育の内容や方法も見直して、無理なく楽しく子どもたちや保育者が過ごせる場づくりができることを期待したい。

本研究の調査は埼玉県のごく一部の市町村の保育現場を対象としたもので、母数も少なく、一般化できる結果とは言い切れないが、保育者の声の例として参考となれば幸いである。

〈謝辞〉

本調査に快く回答していただいた幼稚園、保育園の保育者の方々に感謝いたします。

参考文献

- 足立匡基 (2022) 「コロナ禍における子どもたちのメンタルヘルスの推移とその関連要因」『臨床発達心理実践研究』第17巻1号、24–34頁、日本臨床発達心理士会
- 伊藤修平 (2021) 「コロナ禍を踏まえた子ども・子育て支援新制度の改革提言」『保育の研究』No.29、26–46頁、保育研究所
- 大豆生田啓友 (2020) 「ウィズコロナから考える保育の質の向上」『発達』164 (ウィズコロナ×保育・教育の多事争論)、24–32頁、ミネルヴァ書房
- 柏女霊峰 (2020) 「コロナ禍における就学前保育の『子どもの福祉の保障』『子どもの最善の利益』」『発達』164 (ウィズコロナ×保育・教育の多事争論)、33–38頁、ミネルヴァ書房
- 金谷京子、白石京子、榛谷都 (2013) 「基本的生活習慣チェックリストの活用の試み I ——就学前児の基本的生活習慣の実態把握」『第55回総会発表論文集』135頁、日本教育心理学会
- 厚生労働省 (2022) 「保育所等における新型コロナウイルスへの対応にかかる Q & A について (第十八報)」(<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000989536.pdf>)
- 汐見裕幸 (2020) 「コロナと保育指針」『発達』164 (ウィズコロナ×保育・教育の多事争論)、18–23頁、ミネルヴァ書房
- 田中康雄 (2022) 「コロナ禍による子どもたちの生活と関係性について」『臨床発達心理実践研究』第17巻1号、5–10頁、日本臨床発達心理士会
- 苫野一徳 (2020) 「ウィズコロナのなかでの公教育の役割」『発達』164 (ウィズコロナ×保育・教育の多事争論)、46–51頁、ミネルヴァ書房
- 全国保育園保健師看護師連絡会 (2020) 「保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック第1版」(2020.5.26) (<https://www.hoiku-kango.jp/wp-content/uploads/2020/06/%E4%BF%9D%E8%82%B2%E7%8F%BE%E5%A0%B4%E3%81%AE%E3%81%9F%E3%82%81%E3%81%AE%E6%96%B0%E5%9E%8B%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E3%82%A6%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%82%B9%E6%84%9F%E6%9F%93%E7%97%87%E5%AF%BE%E5%BF%9C%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%96%E3%83%83%E3%82%AF%E7%AC%AC1%E7%89%88.pdf>)
- 横山洋子監修執筆 (2022) 『まいにちの保育&アイデア集——保育の先生500人に聞きました:子どものこと、仕事のこと、コロナ禍のこと』玄光社

表1 保育における感染対策と子どもの変化

自由記述回答	クラス数									合計
	0歳	1歳	2歳	3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス		
	保育園	保育園	保育園	幼稚園	保育園	幼稚園	保育園	幼稚園	保育園	
	31	31	37	15	29	13	30	14	26	226
消毒に慣れ、手洗いが上手に	2	4	12	5	5	1	10	1	4	44
自主的に手洗い・うがい・マスク		2	1	2	7		10	5	9	36
マスクの管理が上手に				7		4				11
感染予防行動の声の掛け合い・指摘					2	1	1	1	5	10
咳の仕方の意識化			1		1		2			4
黙食の意識化・楽しそうでない				2	1	1	1	1	3	9
食べる量減								1		1
食事時に落ち着かない			2							2
他クラスとの交流減				1		1				2
外遊び減・運動不足				1				1		2
風邪引き、インフルエンザ感染症減	5		2		1	1	2	2	1	14
パーテーション設置の理解							2			2
感染対策に慣れるまで落ち着かなかった							1			1
保育士が離れて食事の理解できず					2					2
感染対策の意味が理解できない					1					1
保育士の声が聞きづらい		2			1			1		4
保育士の表情を読みづらい・不安そう		3	3				1			7
保育士のマスク不着用の顔を見て泣く・驚く	4		1							5
保育士のマスクを外そうとする	1	2								3
口元の模倣ができない		1								1
歌を歌わない	1						1			2
消毒で手が荒れる子						1		2		3
ごっこ遊びで消毒行動再現									1	1
コロナ感染予防を理由に活動しない子							1			1

表2 保育上困ったこと、工夫したこと

自由記述回答		クラス数									合計
		0歳	1歳	2歳	3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス		
		保育園	保育園	保育園	幼稚園	保育園	幼稚園	保育園	幼稚園	保育園	
		31	31	37	15	29	13	30	14	26	226
保育上困ったこと	保育士のマスク着用で表情・口の動きを伝えるにくい	9	10	5	2	3	1	2	1	4	37
	咀嚼指導ができない	2	1						5		8
	保育士のマスク着用で声がとおりにくい・息苦しい		1	2	1	2				2	8
	子どものマスク着用で熱中症心配	1	1		1	1			1	2	7
	子どものマスク徹底が難しい		1			1			1		3
	保護者からのマスク着用要望			1					1		2
	運動中のマスクは心配・息苦しい					2					2
	パーティションのため表情・声が確認しづらい						3		1		4
	異年齢交流経験不足	1	2			3		5	2	2	15
	行事体験不足・内容変更			2	2	1		1		2	8
	グループ活動経験不足								1		1
	ホール等共用部屋の人数制限						1				1
	地域交流体験なし							1			1
	自然に触れる機会減			1							1
	散歩の機会が減った								1		1
	外遊びの人数・時間制限								1		1
	公園の遊具の使用判断ができない			1							1
歌を歌う経験減った						1	1	1		3	
黙食の徹底ができない				1					1	2	
そばで食事指導ができない		1						2		3	
一緒に食べる楽しさを共有できない	1	1	1							3	

保 育 上 困 つ た こ と	調理活動に気を使う						1	2	3
	我慢させることが増えた							1	1
	感染意識の薄い子への対応				1				1
	言葉、排泄、対人関係の遅れが見られる				1				1
	スキンシップが取りづらい	1	3						4
	距離が取れず密になる	1	2	2	2				7
	座席の距離を取ると部屋の使える空間が狭くなる						1		1
	パーティーションのため動作、集中度が確認しづらい				2				2
	パーティーションがあるため動きにくい							1	1
	手洗いに時間がかかるように						1		1
	子ども用消毒剤が不足			1					1
	新入園児が慣れるのに時間がかかる			1					1
	机の移動作業増					1			1
	消毒に時間を取られる	1	2	3	1	2			9
保育が計画通りに進められない						1	2	3	
どこまで感染防止の配慮が必要かわからない							2	2	
工 夫 し た こ と	誇張して体で表現する	1	2				1		4
	行事の内容・方法の見直し	1	2			1	3		7
	分散活動							1	1
	座る位置の工夫		1				2		3
	外でも距離を取る				1				1
	外遊びを増やす		1						1
	パーティーションの設置	1					1		2
	距離を取っての絵本の読み聞かせ	1							1
	咀嚼時はマスクを外して見せる	1							1
	接近しないで寝る位置、食事の位置				2				2
体調チェックの徹底		1						1	

工夫した こと	歯磨き中止					1														1	
	玩具、机等消毒、換気の徹底		1																	1	
	給食時に保育者は手袋、消毒徹底						1													1	
	消毒担当をおいた					1														1	
	写真・動画で様子を保護者に伝える	3	3	1						1											8
	連絡帳の活用		1																		1
	電話で様子を保護者に伝える						1														1
	展示物を保護者の見やすい位置に移動					1															1
	園児から保護者に荷物を在庫を伝える										1										1
	保護者同士の話せる場作り										1										1
	感染予防の紙芝居作成									1											1
	距離が取れる時はマスクを外す									1											1
	送迎バス席の固定・待ち位置も決める													1							1
	休園中の園庭開放									1											1
人数制限での懇談会													1							1	

表3 気になる子の保育で困ったこと、工夫したこと

自由記述回答		クラス数						合計			
		0歳	1歳	2歳	3歳児クラス		4歳児クラス			5歳児クラス	
		保育園	保育園	保育園	幼稚園	保育園	幼稚園	保育園	幼稚園	保育園	合計
		31	31	37	15	29	13	30	14	26	226
困 っ た こ と	直接集団生活の様子を見てもらえず伝えづらい		2	2		4			3	2	13
	保護者と話す機会減					1			1		2
	長期欠席後園生活行動復活困難									2	2
	子どものマスク着用・管理困難			1	7	3	1	2	1	1	16
	子どものマスク着用で熱中症心配				1				1		2
	距離を取れない	1		1	2				1	1	6
	食事指導ができない	2		2						1	5

	さわることを禁止にした遊具をさわる				1				1	
	感染対策の意味の理解ができない			3	1	3		1	8	
	食事中に大きな声で話す子				1		1		2	
	保育士マスク着用で表情伝えにくい	2	1	4	2	2	1	1	2	15
	注意する声が大きくなる	1								1
困	室内遊びのマンネリ化	1								1
っ	異年齢交流ができない			1						1
た	荷物在庫管理不足					2				2
こ	子どもの体力低下		1							1
と	大遊具の経験減		1							1
	自粛明けに吃音が出るようになった			1						1
	保育士のマスク着用で声がとおりにくい							1		1
	制限が増えストレスが溜まっている							1		1
	パーティーションを壊す							1		1
	荷物の受け取りに人手不足		1			1				2
工	話せる時に保護者に丁寧に伝える	1		1					1	3
夫	座る位置の工夫					2		1		3
し	接近しないで寝る位置、食事の位置						2		1	3
た	感染対策の介助								1	1
と	遊びに変化を持たせる			1		1		1		3
夫	保護者に写真や動画で様子を見てもらう		1	1		1		1		4
し	保護者に書面で伝える		1							1
た	誇張して表現する、ジェスチャーを使う		1	3		1		1	1	7
こ	予備のマスクを準備					1				1
と	こまめに玩具を消毒			1						1
	絵やイラストを使用して本人に伝える					1				1
	食事の際のパーティーション設置						1			1
	真夏はマスクを外す							1		1
	自粛明けはゆったり接する								1	1

表4 保護者の生活変化の影響

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児		4歳児		5歳児		合計
ない		17	13	15	7	11	9	14	11	10	107
ある		8	14	18	7	14	3	10	5	10	89
例)	登園渋り、自分だけ登園で不安定に	2	3	6	2	5	1	3	1	4	27
	欠席、早退、遅刻増	2	6	7	2	8		5	1	4	35
	延長保育利用増				1				1		2
	父親在宅勤務で父親の話増								1		1
	父親のお迎え増						1				1
	保護者在宅勤務でふれあい増			1	1						2
	在宅勤務でも遊んでもらえず		1								1
	YouTube、ゲーム三昧							1		1	2
	お出かけ無しで休み明けでも疲労なし							1			1
	生活リズムが乱れ、不安定	1	2	5							8
	父親についての話増								1		1
	登園短縮でご機嫌	1								2	3

表5 園と保護者との連携問題

自由記述回答	クラス数		0歳	1歳	2歳	3歳児 クラス		4歳児 クラス		5歳児 クラス		合計
	保育園	保育園	保育園	幼稚園	保育園	幼稚園	保育園	幼稚園	保育園	幼稚園		
	31	31	37	15	29	13	30	14	26	226		
懇談会減、話す機会減で情報共有しにくい	3	5	3	1	9	1	2		5	29		
懇談会のオンライン開催要望								1		1		
行事、参観減で直接見てもらえず伝わりづらい	6	7	5	1	10	1	11		5	46		
行事問合せ・意見		2		1	3	3	4	1	4	18		
行事のDVD撮影要望あり				1						1		

欠席、早迎え協力あり	5	1	3	1	2		1		3	16
早迎え協力なし・登園・降園時間不規則	7	4			4	1	3		2	21
保護者所在不明	2	1	2		1		1		1	8
体調不良欠席協力なし	1	3	3		2		3		1	13
濃厚接触者でも登園								1		1
感染問合せ、体調の話	1		1	5		2	4		1	14
マスク着用協力なし・抗議				2				1		3
マスクに抵抗のある子の相談								1		1
保護者からの集会時のマスク着用要望				1						1
保護者同士の交流なし	1				2	1	3	1	1	9
荷物在庫管理不足	2	1	5		2				1	11
解熱後の登園ルールへの不理解	2		1							3
感染予防の認識薄い		1						1		2
苦情が増える			1							1
保護者へのお願い増				1						1
保育園は安全と思っている			1							1
オンライン環境の差の影響が出ている	1									1
自粛で母親がストレス増		1								1
家庭訪問不可						1				1
素顔を知らない、顔を覚えにくい						2				2
相談減る		1								1

表6 保育者の不安

自身の感染への不安	9
ワクチンの優先接種の情報がない・早く打ちたい	5
感染者がいつでるか不安	4
終息がみえない	2
保育士のマスク着用の子どもへの影響	2
マスクで息苦しい	1
いつまでマスク生活が続くのか	1
家族は自粛でも自身は休みがとれない	1
疲れの蓄積	1
感染予防の基準がわからない	1